



KOBELCO

平成17年3月期 中間決算について

平成16年11月15日



KOBELCO
◆ KOBELCO STEEL, LTD.

報告事項

1.2004年度の概要

2.補足説明

- ・2004年度中間決算について
- ・2004年度見通しについて

3.質疑応答



1. 2004年度の概要



2004年度 上期実績

(単位:億円)

	上期 実績	(前回) 見通し	差異
売上高	6,847	6,900	△53
営業利益	673	630	43
経常利益	451	370	81
特別損益	△102	△100	△2
当期利益	156	110	46



2004年度 業績見通し

(単位:億円)

	2004年度見通し			(前回) 見通し	差異
	上期	下期	年度		
売上高	6,847	7,553	14,400	14,200	200
営業利益	673	897	1,570	1,450	120
経常利益	451	599	1,050	900	150
特別損益	△102	△8	△110	△100	△10
当期利益	156	344	500	400	100



'04年度)セグメント別営業利益

(単位:億円)

	2004年度見通し			(前回) 見通し	差異
	上期	下期	年度		
鉄鋼関連事業	349	531	880	775	105
電力卸供給関連事業	96	104	200	200	0
アルミ・銅関連事業	84	86	170	170	0
機械関連事業	2	53	55	60	△5
建設機械関連事業	44	31	75	80	△5
不動産関連事業	16	14	30	30	0
電子材料その他	64	71	135	115	20
消 去	15	10	25	20	5
合 計	673	897	1,570	1,450	120



セグメントの概況①【鉄鋼】

(単位:億円)

	2004年度見通し			(前回) 見通し	差異
	上期	下期	年度		
売上高	2,940	3,260	6,200	6,100	100
営業利益	349	531	880	775	105

- ・上期：国内、輸出ともに好調に推移。販売価格の改善が進展。
- ・下期：国内は自動車向けで季節的な需要増、輸出は電機メーカー向け電気亜鉛めっきや自動車向け鋼材を中心に強い需要が継続。
- ・フル生産を継続。限界的投資、効率化等による増産に注力。
- ・加古川)溶鋼処理設備が12月より稼働。品質・生産効率向上。



当社の生産・販売状況

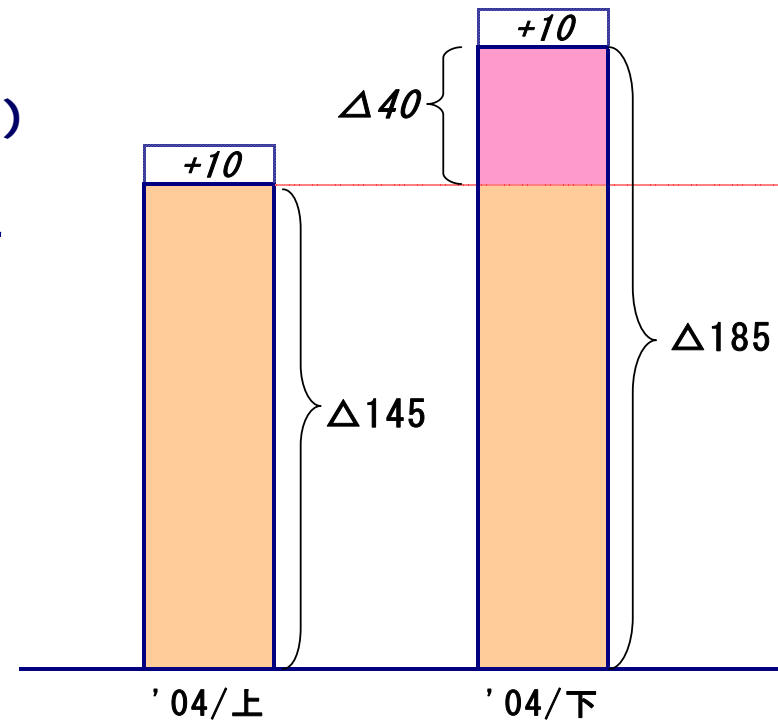
	2003年度		2004年度
	上期	下期	上期
全国粗鋼 (万 t)	5,543	5,557	5,637
全国在庫水準 (万 t)	553	499	538
国内自動車生産台数 (万台)	497	539	513
<当社>			
粗鋼生産 (万 t)	360	371	380
鋼材販売量 (万 t)	311	318	324
(内 国内)	(237)	(239)	(243)
(内 輸出)	(74)	(79)	(81)
鋼材販売単価 (円/ t)	47,200	47,300	53,500
鋼材輸出比率 (金額ベース)	24.3%	24.5%	26.9%
(数量ベース)	23.7%	25.0%	24.9%



原料価格の高騰について

(単位:億円)

	04見通し	(前回)	差異
上期	△ 145	△ 155	10
下期	△ 185	△ 195	10
合計	△ 330	△ 350	20



(対前回):コークス・海上運賃等の市況軟化

(上期⇒下期):海上運賃の反転・上昇

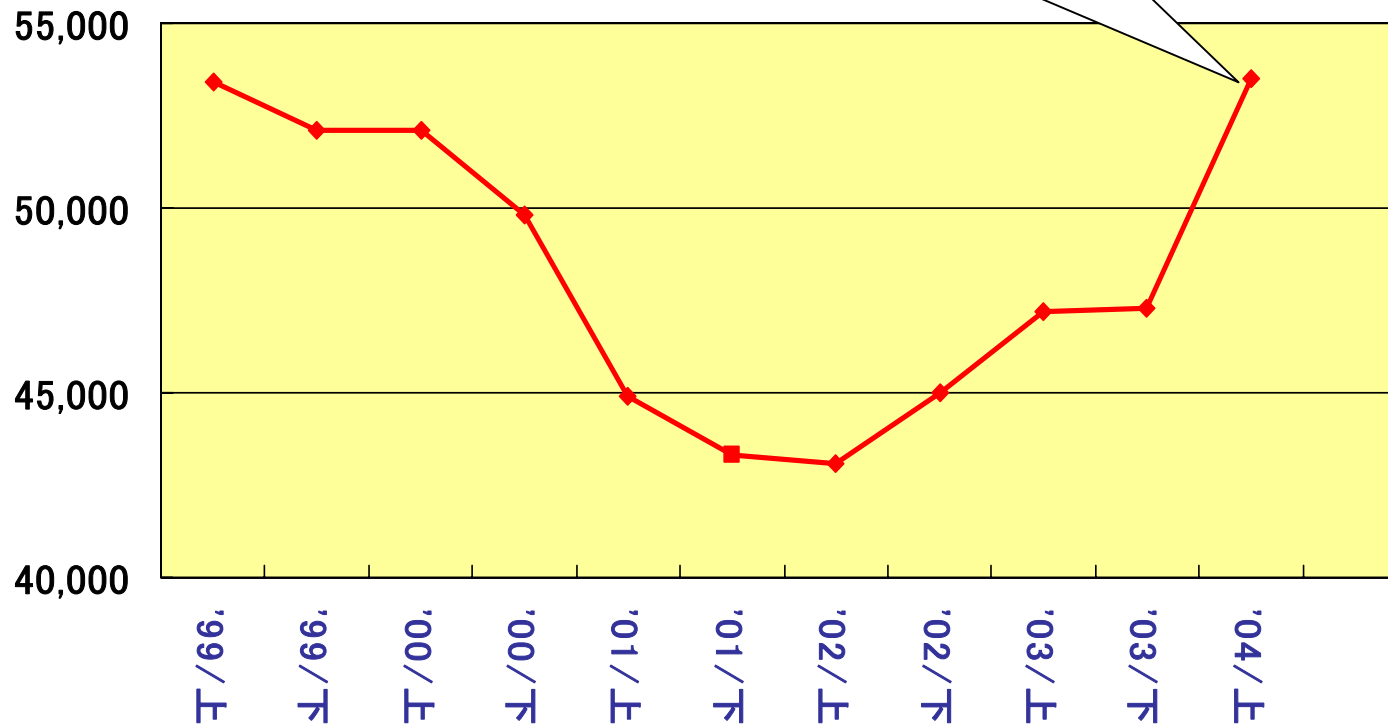
供給トラブルの懸念

金属市況上昇

鋼材単価の推移

(単位:円/ト)

対'03比+6,200円/t
(47,300円/t⇒53,500円/t)





セグメントの概況②【電力卸供給】

(単位:億円)

	2004年度見通し			(前回) 見通し	差異
	上期	下期	年度		
売上高	274	326	600	600	0
営業利益	96	104	200	200	0

・2基ともに、順調に操業を継続。



セグメントの概況③【アルミ・銅】

(単位:億円)

	2004年度見通し			(前回) 見通し	差異
	上期	下期	年度		
売上高	1,459	1,391	2,850	2,750	100
営業利益	84	86	170	170	0

- ・上期:飲料用缶材、自動車向け・半導体/液晶向け共に好調に推移。
空調用銅管についても、猛暑影響により需要が増加。
- ・下期:自動車向けが引続き好調。缶材・空調用銅管は季節的な需要減。
- ・半導体/液晶関連需要が調整局面。
⇒複数の製品群を持つことで変動の影響を緩和。
⇒自動車関連需要は引続き好調。
⇒アルミのロールマージン上げが浸透。



需要動向と当社販売状況

摘 要	' 0 3 年度実績		' 0 4 年度見通し	
	上 期	年 度	上 期	年 度
軽圧品内需 (千トン)	1,195	2,403	1,230	2,445
アルミ板	694	1,380	708	1,399
アルミ押出	501	1,023	522	1,046
内 缶材 (千トン)	226	424	235	435
伸銅品内需 (千トン)	311	637	335	665
板 条	217	449	238	477
銅 管	94	188	97	188
エアコン内需 (万台)		670		714

< 当社の販売状況 >

アルミ圧延品国内 (千トン)	145	277	150	285
輸出 (千トン)	44	86	41	78
銅圧延品 (千トン) (銅管除く)	29	59	31	63



セグメントの概況④【機械】

(単位:億円)

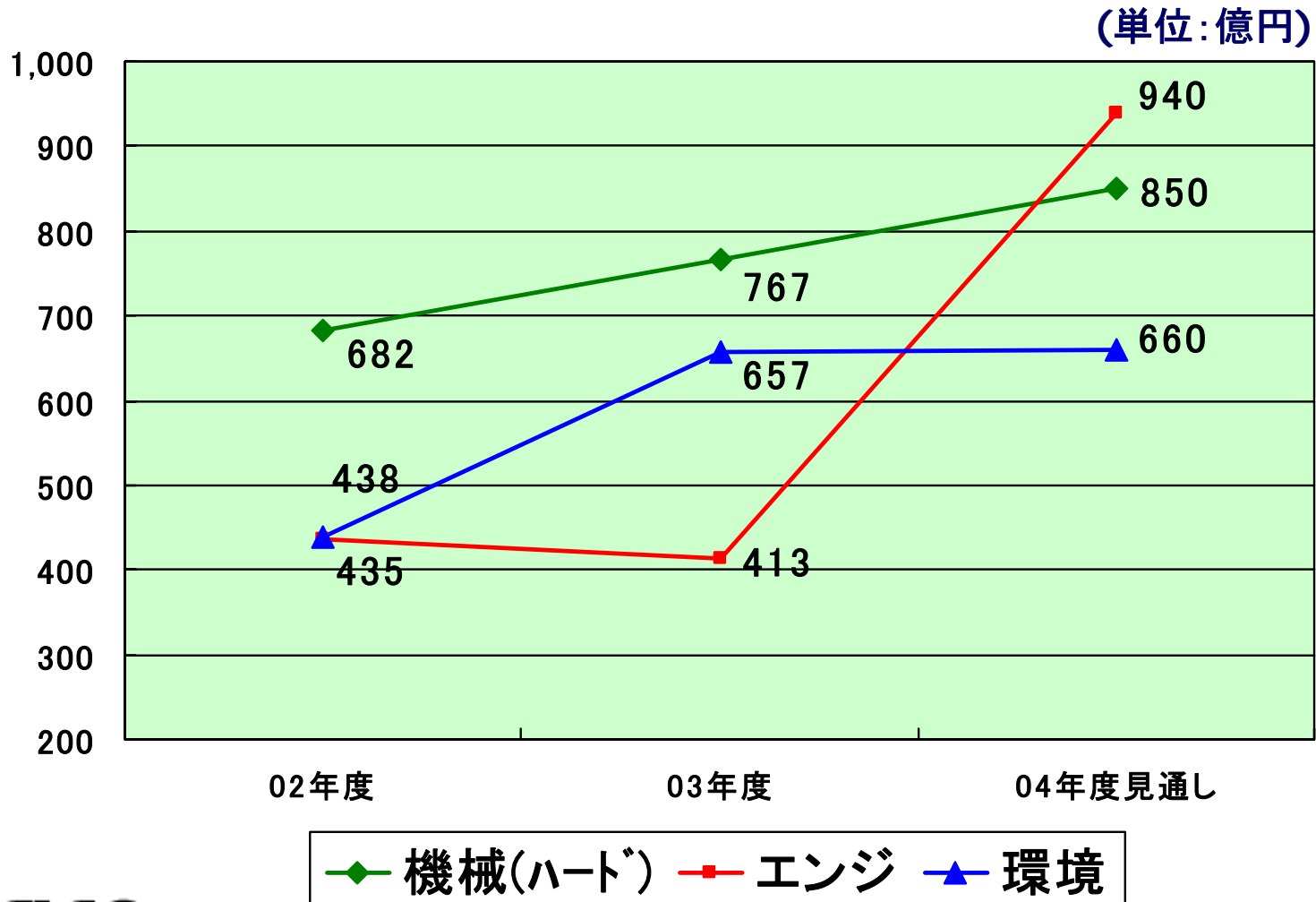
	2004年度見通し			(前回) 見通し	差異
	上期	下期	年度		
売上高	919	1,381	2,300	2,250	50
営業利益	2	53	55	60	△5
受注高	976	1,474	2,450	2,380	70

(ハード系)圧縮機・タイヤ機械等で好調継続。
サービス/メンテナンスを中心とした値上げが浸透。

(環境)厳しい受注環境が継続。

(新鉄源)製鉄プラントの商談が活発化。
コムシグア社(還元鉄の製造・販売)が業績急回復。(持分)

受注高推移





セグメントの概況⑤【建設機械】

(単位:億円)

	2004年度見通し			(前回)見通し	差異
	上期	下期	年度		
売上高	1,065	985	2,050	2,100	△50
営業利益	44	31	75	80	△5

- ・上期:国内は中古車輸出によるストック台数減等により堅調に推移。
海外は東南アジア及び北米が好調に推移。
中国は4月以降急速に減少。
- ・下期:国内・海外(中国以外)は堅調に推移。中国は引続き低迷。
⇒中国第一工場は、政府の投資抑制策の影響により調整休止。
⇒建設中の第二工場(杭州)の稼働は、需要を見極めて判断。
⇒中国での減益は、堅調なその他の地域でリカバリー。
- ・クレーン事業は、海外向けを中心に好調。



需要動向

【ショベル需要】

(単位:台)

	03年度実績		04年度見通し		(前回)見通し
	上期	年度	上期	年度	
国内	10,248	22,615	12,515	24,800	24,500
中国	17,357	29,852	20,428	25,000 〔1~10月実績: 23,000〕	25,000 ~28,000



セグメントの概況⑥【電子材料その他】

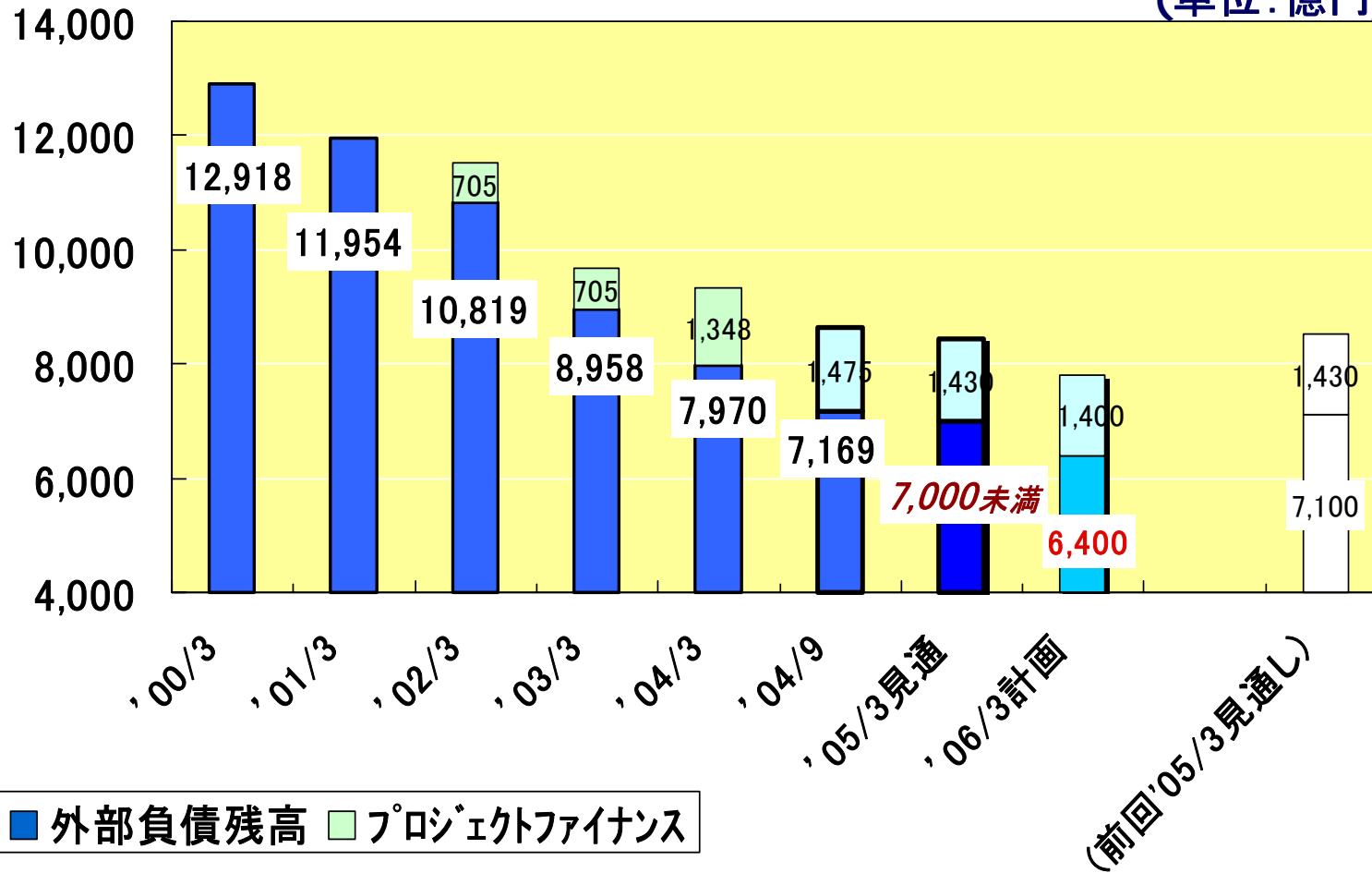
(単位:億円)

	2004年度見通し			(前回)見通し	差異
	上期	下期	年度		
売上高	252	278	530	490	40
営業利益	64	71	135	115	20

- ・下期:液晶業界は調整局面となるも、配線膜用ターゲット材(コベルコ科研)は前回見通し比で増収増益。

外部負債残高の推移

(単位: 億円)



株主資本の状況

(単位: 億円)

	03年度 末	'04年度 上期末	'04年度 末見通し	
資本金	2,181	2,181	2,181	} 3,665
資本剰余金	679	679	679	
利益剰余金	317	461	805	
株式等評価差額金	210	181	181	
為替換算調整等	△86	△97	△97	
資本の部合計	3,301	3,405	3,749	

中期経営計画の進捗状況

(単位:億円)

	02年度 実績 ①	中期計画		03年度 実績 ④	04年度 見通し ⑤
		03年度 ②	05年度 ③		
売上高	12,047	11,900	12,500	12,191	14,400
経常利益	354	430	800	507	1,050
ROA	3.4%	3.7%	6%	4.0%	6.8%
外部負債残高 (含むプロファイ)	8,958 (9,663)	8,290 (9,650)	6,400 (7,800)	7,970 (9,318)	7,000未満 (8,430未満)
D/Eレシオ	3.0倍	2.7倍	1.7倍	2.5倍	1.9倍以下
特長ある差別化 商品比率	30%	33%	40%	33%	37%



事業の選択と集中①

【鉄 鋼】

- 中国における自動車用特殊鋼線材の加工拠点設立決定
- 溶接事業に関するJFEとの提携強化(生産の当社への集中)
(社名:KOBELCO・JFEウェルディング(株)、出資比率:当社100%)
- エア・ウォーターと工業ガス外販事業会社発足
〔社 名:神鋼エア・ウォーター・ガス(株)
出資比率:当社40%/エアウォーター60%〕

【アルミ銅】

- 三菱マテリアルとの銅管事業統合
〔社 名:コベルコ マテリアル銅管(株)
出資比率:当社55%/三菱マテリアル45%〕
- 半導体リードフレーム事業の中国進出
(社名:神鋼力米克電子部品(無錫)有限公司、出資比率:当社75%)



事業の選択と集中②

【機 械】

- エア・ウォーターと空気分離装置エンジニアリング事業統合

社 名：神鋼エア・ウォーター・クライオプラント(株)

出資比率：当社60%/エアウォーター40%

- プラント関連グループ会社統合

(神鋼商事の汎用圧縮機事業をコベルココンプレッサ(株)(当社100%)に統合)

【建設機械】

- クレーン事業の分離 (社名：コベルコクレーン(株)、出資比率：当社100%)

【その他】

- 京セラとの医療材料事業の統合

(社名：日本メディカルマテリアル(株)、出資比率：当社23%/京セラ77%)

- JFEコンテイナーとのガスシリンダー事業統合

(社名：神鋼JFE機器(株)、出資比率：当社80%/JFEガスシリンダー20%)



中国における自動車用特殊鋼線材の 加工拠点設立について①

- ・会社名：神戸線材加工(佛山)有限公司(仮称)
- ・所在地：中国広東省佛山市
- ・資本金：7.25億円
- ・事業内容：特殊鋼線材の二次加工製品(磨き棒鋼・冷間圧造用ワイヤー)の製造・販売
- ・出資比率：当社60%,メタルワン25%,協同シャフト7.5%,杉田製線7.5%
- ・総投資額：約18億円
- ・稼動時期：2006年4月(予定)
- ・生産能力：約15,000t/年(需要にあわせて順次拡張)

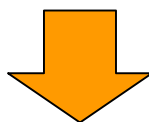


中国における自動車用特殊鋼線材の 加工拠点設立について②

当社の対応

素材の供給：高付加価値品（特殊鋼線材/超ハイテン等）
に絞り、国内からの輸出で対応。

サービス体制：現地での機能拡充によるユーザー満足度
向上を図る。



二次加工拠点の設立



2. 補足説明



2004年度中間決算 について



2004年度 上期実績

(単位:億円)

	2003年度	2004年度上期		
	上期	前回①	実績②	差異②-①
売上高	5,870	6,900	6,847	△53
営業利益	420	630	673	43
経常利益	175	370	451	81
特別損益	△3	△100	△102	△2
当期利益	89	110	156	46



上期)セグメント別売上高

(単位:億円)

	2003年度 上期実績	2004年度上期		
		前回 ①	実績 ②	差異 ②-①
鉄鋼関連事業	2,541	2,950	2,940	△10
電力卸供給関連事業	145	300	274	△26
アルミ・銅関連事業	1,228	1,450	1,459	9
機械関連事業	834	900	919	19
建設機械関連事業	932	1,100	1,065	△35
不動産関連事業	206	150	169	19
電子材料その他	207	240	252	12
消 去	△224	△190	△234	△44
合 計	5,870	6,900	6,847	△53



上期)セグメント別営業利益

(単位:億円)

	2003年度 上期実績	2004年度上期		
		前回 ①	実績 ②	差異 ②-①
鉄鋼関連事業	226	320	349	29
電力卸供給関連事業	45	100	96	△4
アルミ・銅関連事業	71	80	84	4
機械関連事業	△24	△10	2	12
建設機械関連事業	34	50	44	△6
不動産関連事業	26	15	16	1
電子材料その他	27	55	64	9
消 去	13	20	15	△5
合 計	420	630	673	43



全社経常利益差異【04上期見通し 前回⇒実績】

(単位:億円)

	2004年度前回			2004年度今回		
	上期	下期	計	上期	下期	計
経常利益	370	530	900	451	599	1,050

+81

増益要因		減益要因	
生産・出荷	+ 10	総コスト削減	△ 5
原料価格	+ 10	(変動費+0、固定費△5)	
連結子会社・持分法	+ 44		
その他	+ 22		
合計	+ 86	合計	△ 5



全社経常利益差異内訳【03下期⇒04上期】

(単位:億円)

	2003年度実績			2004年度見通		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常利益	175	332	507	451	599	1,050
		└──+119──┘				

増益要因		減益要因	
生産・出荷	+220	原料価格	△130
総コスト削減 (変動費+10、固定費+30)	+ 40	設備保全費用	△ 20
連結子会社・持分法+	62	緊急対策解除	△ 20
		その他	△ 33
合計	+ 3 2 2	合計	△ 2 0 3



鉄鋼)営業利益差異内訳【03下期⇒04上期】

(単位:億円)

	2003年度実績			2004年度見通		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
営業利益	226	302	528	349	531	880



増益要因		減益要因	
生産・出荷	+200	原料価格	△130
総コスト削減 (変動費+0、固定費+25)	+ 25	設備保全費用	△ 20
		緊急対策解除	△ 15
		連結子会社・持分法	△ 11
		その他	△ 2
合計	+ 2 2 5	合計	△ 1 7 8



2004年度見通し について



2004年度 業績見通し

(単位:億円)

	2003年度	2004年度見通し		
	実績	前回①	今回②	差異②-①
売上高	12,191	14,200	14,400	200
営業利益	1,006	1,450	1,570	120
経常利益	507	900	1,050	150
特別損益	△150	△100	△110	△10
当期利益	220	400	500	100



'04年度)セグメント別売上高

(単位:億円)

	2003年度 実績	2004年度見通し		
		前回 ①	今回 ②	差異 ②-①
鉄鋼関連事業	5,344	6,100	6,200	100
電力卸供給関連事業	301	600	600	0
アルミ・銅関連事業	2,433	2,750	2,850	100
機械関連事業	1,962	2,250	2,300	50
建設機械関連事業	1,839	2,100	2,050	△50
不動産関連事業	431	350	330	△20
電子材料その他	452	490	530	40
消 去	△574	△440	△460	△20
合 計	12,191	14,200	14,400	200



'04年度)セグメント別営業利益

(単位:億円)

	2003年度 実績	2004年度見通し		
		前回 ①	今回 ②	差異 ②-①
鉄鋼関連事業	528	775	880	105
電力卸供給関連事業	85	200	200	0
アルミ・銅関連事業	149	170	170	0
機械関連事業	14	60	55	△5
建設機械関連事業	80	80	75	△5
不動産関連事業	37	30	30	0
電子材料その他	81	115	135	20
消 去	29	20	25	5
合 計	1,006	1,450	1,570	120



全社経常利益差異内訳

【04年度見通し 前回⇒今回】

(単位:億円)

	2004年度前回			2004年度今回		
	上期	下期	計	上期	下期	計
経常利益	370	530	900	451	599	1,050
				+150		

増益要因		減益要因	
生産・出荷	+ 40		
原料価格	+ 20		
連結子会社・持分法	+ 46		
為替影響	+ 10		
その他	+ 34		
合計	+ 150	合計	0



全社経常利益差異内訳 【04年度上期⇒下期】

(単位:億円)

	2003年度実績			2004年度見通		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常利益	175	332	507	451	599	1,050
				└ +148 ─┘		

増益要因		減益要因	
生産・出荷	+195	原料価格	△ 40
総コスト削減 (変動費+30、固定費+0)	+ 30	その他	△ 65
連結子会社・持分法 為替影響	+ 23 + 5		
合計	+ 2 5 3	合計	△ 1 0 5



全社経常利益差異内訳 【03年度⇒04年度】

(単位:億円)

	2003年度実績			2004年度見通		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常利益	175	332	507	451	599	1,050



増益要因		減益要因	
生産・出荷	+690	原料価格	△330
総コスト削減 (変動費+100、固定費+20)	+120	設備保全費用	△ 10
連結子会社・持分法+200		緊急対策解除	△ 70
		その他	△ 57
合計	+1,010	合計	△467



’04年度)特別損益見通し

(単位:億円)

	(前回) 見通し ①	2004年度見通し			差異 ②-①
		上期	下期	年度 ②	
退職給付過去勤務債務償却	70	34	35	69	△1
投資有価証券売却益	30	26	-	26	△4
退職給付会計変更時差異	△130	△63	△65	△128	2
固定資産減損処理	△90	△90	-	△90	0
資産売却益 他	20	△9	22	13	△7
合 計	△100	△102	△8	△110	△10



単独⇒連結差異内訳

(単位: 億円)

	2003年度		2004年度				差異	
	経常 損益	当期 損益	上期実績		年度見通し		対03年度	
			経常	当期	経常	当期	経常	当期
単 独 損 益	252	158	255	115	600	330	348	172
連 結								
連結子会社損益	241	93	197	65	410	170	169	77
持分法損益	60	60	41	41	80	80	20	20
配当金	△67	△67	△46	△46	△50	△50	17	17
その他	21	△24	4	△19	10	△30	△11	△6
合計	255	62	196	41	450	170	195	108
連 結 損 益	507	220	451	156	1,050	500	543	280

将来見通しに関する注意事項

- 本日のプレゼンテーションの中には、弊社の予想、確信、期待、意向および戦略など、将来の予測に関する内容が含まれています。これらは、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確実性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまいう可能性があります。弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。
- 上記の不確実性および変動の要因としては、以下に挙げる内容を含んでいます。また、要因はこれらに限定されるわけではありません。
 - 主要市場における経済情勢および需要・市況の変動
 - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
 - 為替相場の変動
 - 原材料のアベイラビリティや市況
 - 競争企業の製品・サービス、価格政策、アライアンス、M&Aなどの事業展開
 - 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化